令和２年度　第１回吹田市立学校規模等検討委員会　議事概要

日　時	令和２年７月２日（木）１９：００～２０：３０
場　所	吹田市教育委員会　教育委員室
出 席 委 員	森島 委員　森田 委員 植田 委員　若本 委員 江下 委員　塩路 委員
事 務 局	橋本学校教育部長　堀学校教育部次長 植村教育政策室長　長井総括参事 曽我主幹　泉宮係員
案　件	（１）委員長及び副委員長の選出について （２）諮問について （３）吹田市の状況について （４）その他（今後のスケジュールについて）

【事務局】 ただ今より令和２年度　第１回吹田市立学校規模等検討委員会を開催します。
本日は第１回目の会議ですので、委員長の選出まで進行は事務局で行います。
では、最初に学校教育部長からごあいさつ申し上げます。

【学校教育部長】 あいさつ

【事務局】 委員紹介および事務局紹介

【事務局】 資料確認

【事務局】 委員会規則第５条第２項により検討委員会が成立していることを報告

【事務局】 委員長選任については「委員の互選により定める」と規定されています。
委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（委員からの推薦で森島委員長、若本副委員長選出）

【事務局】 諮問書につきまして、学校教育部長から委員長に対し交付いたします。

【学校教育部長】 （諮問書を委員長に対し交付）

【事務局】 ここからは委員長にて議事進行をお願いします。

【委員長】 では、次第に従いまして議題（２）諮問についてです。

【委員長】 ここで、諮問された内容について、少し詳しく事務局より説明願います。

【事務局】 資料１にもとづき、説明。

【委員長】 引き続き、他の資料の説明もお願いします。

【事務局】 議題（３）について、資料４から資料 10 の資料説明

【委　員】 児童生徒数推計にて、児童数は見えますが、教員の推計はどう見ればいいのですか。

【事務局】 教員数については、各学校の学級数から全体の傾向がわかります。

【委員長】 補足します。担任教員数は学級数によりますが、加配される教員の人数は年度によって異なります。

【委　員】 教員にとって魅力的な職場を作るというのも課題になるのかなという気もします。
高齢者の施設などでは、箱を作るが介護の人材がいなくて、受入数が定員までいかなかったケースなどを聞きます。

【委員長】 全国的には児童数は減ってきていますが、吹田市は逆に児童数が増え、教室が不足している状況で、教員の増員も行っている状況です。この会議では、国の考え方と吹田市の独自性を分けて考えていく必要があると思います。

【委　員】 耐震化率はどうなのですか。昭和５６年より古い建物は旧耐震基準なので。

【事務局】 学校の耐震化工事は、校舎、体育館について全て終了しています。

【委　員】 昭和５年の建物のほうが、コンクリートについては昭和40年代より丈夫かもしれません。

【委　員】 児童生徒数が増えていくことに対し、校舎等の増改築等をされていますが、この児童生徒数推計とリンクしながら行っているのですか。

【事務局】 資料7が直近の児童生徒数推計です。RC建物の場合、設計から建設完成まで3年ほどかかりますので、この推計や学校の既存普通教室数をみながら、学校長や関係部局と協議し進めています。普通教室が足りなければ会議室や他の教室が転用できないのか、それができなければ増築等を検討することとなります。

【委員長】 確認したいのですが、この委員会では、子供たちの教育環境ということで、建物やその中身について議論をして行くということですか。

【事務局】子供たちにとってより良い教育環境を整備し、豊かな学びを支援するためご審議等をお願いします。

【委員長】 増築の際、運動場に仮設校舎を建てたいとの話が以前あったのですが、建物だけでなく学校敷地の広さも学校環境にかかわることなので、その点も踏まえ、市として、できること、できないことがあるかと思いますが、できるだけ子供たちにとっていい環境はどうかということで、自由にご意見をいただきたいと思います。

【委　員】 児童生徒数推計は、だいぶ先まで数字が入っていますが、開発とかの情報は数字に反映しているのですか。

【事務局】 開発事業者が開発するときは、教育委員会とも協議をする事になっています。そこでヒアリングした情報に加え、過去の開発による新築マンションに何歳ぐらいの子供がどの位の割合でいたかなどのデータも加味しながら推計を出しています。

　例えば、千里ニュータウンでは、大規模な府営住宅の集約建替えが行われており、集約後、残った余剰地については府が売却し、大型開発となる地区もありますが、そのような場合は余剰地面積から仮定の人数を推計に反映していますが、実際に設計計画として申請がないとはっきりした人数はわかりません。

【委　員】 吹田市の場合は集合住宅が多く、校舎の増築をしたけれどもすぐに満杯になったという事例が過去にあったので、ある程度ゆとりを持った計画が必要だなと思っており、開発情報を早くつかむことが大事だなと思っていました。

【委　員】 学校毎に児童数の増減傾向や開発の規模などが異なるので、学校規模を一律に平準化する議論は、なかなか難しいなというのが感想です。

【委　員】 大規模校でも小規模校でも特別教室の数は一緒です。30学級あっても6学級であっても、体育館は1つなので、学校規模により、利用できる時間帯や人数の幅は大きいと思います。

【委　員】 各学校において、地域の違いや規模を認めてそれぞれの良さを出す教育を行っているとの説明がありましたが、具体的にはどのようなことなのでしょうか。

【事務局】小規模校の例ですが、春に全学年で近くの公園に遠足に行くのですが、出発から帰りまで1年生から6年生までの縦割りの班で行動します。また、校舎での教室配置では1年生のクラスの隣に6年生のクラスを配置しています。このように、学校全体で6年生が1年生の面倒を見るということで、縦の関わりによる取組が非常にやりやすい学校づくりになっています。

　一方で、小規模による弊害もあります。例えば、学級担任は、大きい学校の場合、学年に複数の担任がいるので授業の相談や遠足の相談などができますが、小規模で単学級の場合それを1人でやることになり、苦労する部分もあります。

【委　員】 小規模校に赴任した場合、全部ひとりでやることが多いので、大学を出てすぐの新任教員が苦労する場面もあります。

【委　員】 大規模校の場合、子供が多いということは、いろいろなタイプの子がいるということで、そこでの出会いや、つながりの機会も多く、社会の縮図がそこにあるような感じです。先生方も、いろいろな先生に業務の相談などをすることで新しいアイデアが出てくるなど、広がりができていくというメリットもあります。

人が多いということを、どうクリエイトしていくのかが大規模校なりの楽しさだと思います。

ただ、敷地の狭さが難点で、もともと 600 人規模で作られた学校に 1,000 人の子供がいれば、運動会なども大変で、キャパと人数ということでは、人数規模が大きくても、いろんな苦労があります。

【委　員】 文部科学省の適正基準というのはそのあたりを考えているのでしょうか。

【委　員】 そのあたりはよく考えていかないと、かえって制限されることにもなると思います。

子供にとっていい環境というところを考えた場合、「キャパと人数」というところがやはり適正規模を考える上では大事だと思います。

【委　員】 元々学校が建設されたときの人口を基に建築設計されているので、先ほどの推計のところでもお話がありましたが、そこの地域に開発でマンションが建つと、たちまち教室が足りない状況になり、ご苦労もそこの点にあるような気がします。

【委員長】 このような状況で、教育委員会として、前回の平成 14 年の考え方から、今回はこのように改善したい、このような視点が欲しいというところがあれば教えて下さい。

【事務局】平成 14 年の時は、全国的に少子化に向かうと見込んでおり、吹田市の人口も 37 万人まで増えることまでは想定していなかったと思います。さらに、会社の社宅やグラウンド、老朽化した集合住宅の建替えによる大きな開発で、今後 30 年後も人口や子供の数が変わらないということを想定することは難しかったと思います。

大規模開発の場合、それによる影響を通学区域内で調整することは難しいのですが、他市の事例では、大規模開発がある地区においては、さほど大規模でない隣接の学校への通学区域の変更が選択できるなどの手法で調整しているので、そのような手法などもご議論いただければと考えております。

【委　員】 吹田、豊中、箕面の景観まちづくりに携わっているとそれぞれまちの成り立ちが違います。吹田市はマンションが建ちやすい地域です。特に、千里ニュータウンの外側周辺の方が、増加率が高いのかなと思います。江戸時代まで人が住んでいたところや大正ぐらいから山だったところを土地開発し、戦後ニュータウンの開発が行われ、人口の増加があった。これらの履歴を見ると土地の今後の使われ方もわかるのではないかなと思います。

【委　員】 吹田や豊中は、空港や新幹線の駅も近くで、高速道路も通っていて、非常に交通の利便性が高く、マンションが建ちやすい土地だと思います。

【委　員】 放課後、学校開放で遊ぶ子供と学童の子供とが分かれて遊んでいて、今後、学童が増えていった場合、学校開放の子供たちの遊び場はどうなるのかなと。運動不足が言われている中、遊び場が少なくなるのはやはり気になります。

【委員長】 全国的にもみても、子供の数が増えるということは、珍しく、ありがたいことなのですが、子供たちが過ごす場所としても大規模校の課題があるかなと思います。

【委　員】 大きい学校ほど学童の数も多いわけで、学校からしたら、学校開放の子も学童の子もどちらも同じ学校の児童なので、どちらが優先ともいえないです。

【委　員】 新しい学校を作る計画はあるのですか。建替えや、例えば、既存校舎を高層にするとか、近隣の土地を買うだとか、先の話なので分からないかもしれませんが教えてください。

【事務局】学校の建替えは将来的にはあると思います。開発などで学校規模がこのままでは増加する児童を受け入れられないという事であれば、今の学校で校舎を増やして、それでも足りないということであれば、選択肢の一つとして、移転建替えなども可能性としてはあると思います。

吹田市は学校を含め、公民館など、1950 年代半ばから 60 年代の高度経済成長期に集中的に整備されており、公共施設やインフラの老朽化が進んでいます。

吹田市の公共施設最適化計画の考え方では、同じような施設を集約して建替える「集約化」や、他の施設との「複合化」を行い、施設の総量をできるだけ増やさず、利用需要や人口変動なども踏まえて、財政負担の軽減、平準化、公共施設の最適配置を目指しているところです。

近くに学校敷地に適当な土地があるならば、移転建替などの手法もありますが、いまだに子供の数は増えており、また、近くに手ごろな土地もなく、50 年後までこのような状況であるのか判断しにくい現状では、具体的に動いている計画はありません。

【委　員】 ちなみに、児童数が多かったのは 1983 年頃だと思いますが、当時はどのようにしていたのですか。

【委　員】 小学校は、1,470 名の児童数で、1 学年で 270 名ぐらいでした。1 学年のクラス数は 6～7 クラスぐらいでした。ただし、当時は 1 クラス 45 名だったのですが、今の基準では 40 人なので、今の基準で行けば 8 クラスぐらいになります。また、子供達の学習環境が昔と異なり、机の大きさも大きくなっているので、昔の定数では教室に子供が入りきらないと思います。

【委　員】 昔と違って、ソフトの部分も変わりました。コンピュータ室も無かったですし、特別教室も変わりました。学びの豊かさによる多様化もスペース不足の一因になっていると思います。

【委員長】単なる建物としてのハードについてだけでなく、中身を豊かにするソフト面についてのご意見もいただきたいと思います。また、子供たちの育ちの部分で、座って学習するだけが学校の役割ではなく、先ほど出ました遊び場の問題、教育環境の部分とか、先生方の数の改善など、いろいろな意見を自由にしていただき、将来的な方向性と現状での緊急性の課題とに分けながら、議論していただけたらいいなと思います。

【委員長】 次に、今後のスケジュールについて、事務局から説明願います。

【事務局】 本日諮問いたしました諮問事項について、令和２年１１月ごろまでご議論いただき、令和２年１２月には検討委員会より答申案を出していただきたいと考えています。

次回の会議につきましては、あらためて、ご連絡します。

【委員長】 それでは、これで第１回の会議を終わらせていただきます。